



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

ゲンジボタルの里・日田 ホテルビオトープ

ゲンジボタルとは



ゲンジボタルは、本州、四国、九州の各地の川辺に生息する、古くから「初夏の風物詩」として日本人に最も親しまれてきた昆虫の一つです。程良く栄養分のある、きれいな水の流れる河川に生息し、成虫では体長 15mm 前後となります。毎年 5 月下旬から 6 月頃に、およそ 2 秒の間隔で淡い黄緑色を発光することから、その幻想的ともいえる美しさで多くの人々を魅了し続けています。



ゲンジボタル

ホテルビオトープの取り組み



大山ダムのある大分県日田市は、昔からゲンジボタルの里として有名な地域であることから、大山ダムでは、ダム建設時から環境保全に配慮した工事を進め、上流の赤石川右岸のダム湖畔に、地域への貢献、地元の子供たちへの環境教育の場を作ることを目的として、約 270㎡のビオトープを設置しています。

ビオトープには、蛇行した「せせらぎ」と瀬や淵のある池を配置し、周囲にはダム湛水域内にあったエノキ、モミジ、コケなどの在来種を移植し、土や石なども基本的にすべて湛水域内のものを使用しました。ビオトープ設置後は、ダム下流の大山川で採取したゲンジボタルの成虫から産卵・孵化させた幼虫を放流しました。ゲンジボタルが発光する時期の日没後に職員が観察したとこ

ろ、今年最も多い日で約 10 匹のホタルの飛翔を確認しています。



ビオトープの設置当初 (写真左) と現在の姿

JHEP 認証を取得して



これらの取り組みが評価され、2015 (平成 27) 年 11 月に、大山ダムは、ホテルビオトープとしては国内初となる JHEP (Japan Habitat Evaluation and Certification Program) の認証を取得しました。これは、アメリカで開発された、環境アセスメントなどで用いられる「ハビタット評価手法 HEP*」をもとに公益財団法人日本生態系協会が開発した環境評価方法に基づく認証制度です。JHEP では、その地域の指標となるような植生や野生の生物の住みやすさを「事業前の過去の状況」と「事業実施後の状況」について、客観的、定量的に評価し、ランク付けを行います。

大山ダムでは、JHEP 認証の取得を励みにゲンジボタルの保護に向けた取り組みを継続するとともに、このことをきっかけとして、生物多様性の保全に関する意識の普及・啓発の一助になることを願っています。



飛翔するホタル

* ある土地で実施した行為により得られる生態系の価値を「質」「量」「時間」という 3 つの観点で評価する手法